



CONTENTS

◆後援会会長あいさつ……………	1
◆教育学部長あいさつ……………	2
◆教職大学院のススメ……………	3
◆学生の年間スケジュール紹介 ……	4
◆卒業生の声……………	8
◆後援会活動の概要……………	10
◆後援会幹事名簿……………	11
◆補助事業のお知らせ……………	12



寄り添う教師として

後援会会長 勝 部 宏 行

島根大学教育学部後援会の皆様には、日頃より後援会活動にご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。本年度、会長を務めさせていただくこととなりました勝部と申します。皆様のお力をお借りして、本後援会が益々発展するよう、誠意を持って取り組んで参りたいと考えております。ご指導ご支援のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

さて、今年度より小学校に於いては、英語・道徳への取り組みの変化に伴い、教師に課せられる責任はますます大きくなっていくのではないのでしょうか。このように日々変化していく教育現場で、対応していく教師として専門知識だけではなく、4年間、6年間学ぶ意義を考え、純粋に学ぼうとする子供達の姿を想像し、心の窓を開けて真正面から向かっていく力を養っていただけることと思っております。

本後援会は、「島根大学教育学部の発展充実に寄与し、在学生の教育に関し、学部へ協力すること」を目的に、昭和27年から今日に至るまで、学部長先生をはじめ、教育学部関係者の皆様、活動を支えてこられた各方面の諸先輩方のご尽力により、学生の皆さんが豊かな実りある学生生活が送れるように支援を続けることができいております。

主な事業としましては、子供や地域社会との関わりとして「1000時間体験学修」や、島根大学教育学部独自としての教師への育ちを学生自ら診断する「プロフィールシート」の全国に誇る先進的な取り組みを行うなどの学生教育活動、教育実習、さらには、就職活動の一環として書籍整備、企業訪問などに関わる経費の助成を行っています。こうした支援は、確実な成果となり、教員就職率向上へと繋がっております。学生の皆さんの努力はもちろんですが、ご関係者の方々のご尽力に心から、敬意を表し感謝申し上げます。

また、平成29年度より、これからの教育を創造していく教師育成を掲げ学部もリニューアルし、教育を通し社会に繰り出す教師として、頑張れる自分を見つけることで、周りを見渡す力を養っていく学生の皆様を、後援会は応援していきます。

「教師になる」という実現のために、後援会の皆様には後援会組織としての直接支援の他に、職場やお住まいの地域において、学生の皆さんが学外で活動する際にも積極的なご支援をお願いいたします。

皆様のご理解を賜り、ますます充実した後援会活動ができますように、今後ともご協力をよろしくお願い申し上げます。



未来の教育を創造する教師の育成

教育学部長 加藤 寿朗

平成30年度入学生の保護者の皆様、ご入学おめでとうございます。また、教育学部後援会の皆様におかれましては、平素より本学部の教育・研究活動、ならびに就職支援活動に多大なるご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、平成29年3月の卒業者を対象とした国立の教員養成大学・学部（教員養成課程）の就職状況が、文部科学省より公表されました（平成30年2月7日）。その結果、島根大学教育学部の教員就職率（66.9%）は全国10位（44大学中）という高い水準（全国平均は59.3%）であることが分かりました。

島根大学教育学部は全国に先駆けて、山陰地域で唯一の教員養成に特化した学部として平成16年に生まれ変わりました。そして、都市圏にくらべて教員採用数が限られた地域にあっても、全国の平均就職率に引けをとらない水準を維持してきたところです。これも、学生個々人の学修努力とともに、教育学部後援会の心強いご支援があったることと、あらためて感謝申し上げます。

グローバル化、情報化など子どもを取り巻く環境が大きく変化する中で、子どもの成長を支える教育への期待は益々大きくなっています。現代的な教育課題や地

域の課題に対応し、よりよい教育を通して、よりよい社会を創り出していく、そのような教師が今、求められています。

本学部は、先行的に取り組んできた特化型学部としてのカリキュラムの利点を生かしながら、平成29年度に「これからの教育を創造していく教師」を養成する学部としてリニューアルしました。学び続ける教師、教育実践を省察する教師、社会における未来を創造する教師、そのような21世紀の教育を担う教師の育成を目指しています。

そのために、子どもや地域社会との関わりの中で学ぶ「1000時間体験学修」、教師への育ちを学生自らが診断し自己評価する「プロファイルシート」、様々な他者と語り合いながら教職をより深く理解する「教師力パワーアップセミナー」や「面接道場」など、独自の教育システムで教育現場に求められる教員に必要な「教師力」の育成に取り組んでいます。

子どもや教育活動に強い関心を持ち、教師を目指す「夢」と「志」を持った学生を今後も教育学部の全教職員が一丸となって支援していく所存です。後援会の皆様には、益々のご支援・ご協力を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

新学部長に加藤 寿朗教授

島根大学教育学部では、小川 巖学部長の任期満了に伴い、加藤 寿朗教授が新学部長として就任しました。任期は、平成30年4月1日から平成32年3月31日までの2年間です。

加藤 寿朗(かとう としあき)教授

専門分野 社会科教育学，生活科教育学

主 担 当 大学院教育学研究科教育実践専攻専攻(教職大学院)

役 職 歴 企画・総務担当副学部長，教育改善担当副学部長

教職大学院のススメ

島根大学教職大学院は、日々変化する教職現場の様々な課題に対応すべく、目指す教師像として「学び続ける教師」の育成を掲げ、多彩な授業内容や授業方法、高度な実践力を持つ教員や現職教員学生と一緒に学ぶ豊かな学習環境を整えています。

新学習指導要領では、子どもの「主体的・対話的で深い学び」が重視されていますが、これは教師自身にも求められるものであり、まさに教職大学院での学びそのものであると言えます。

平成30年度には、第1期修了生11名の学部新卒学生全員が教壇に立ちました。そのどの顔も自身とやる気に満ち溢れています。

40年にも及ぶ教職人生をやり多きものにするためにも、教職大学院への進学をぜひご検討ください。

院生(教員採用試験合格者)の声

私は現在大学院1年生ですが、島根県教員採用試験で中学校に合格しました。昨年(学部4年次)は高校を受験しましたが不合格となり、それを機に自らの学び足りなさを痛感して大学院への進学を決めました。学部4年間では教科の専門を学んできましたが、学校教育全般に関する学びを十分にできなかったという思いがありました。

講師として学校現場にいれば、日々子どもたちと共に貴重な経験を積めるであろうという思いもありましたが、大学院で島根県が抱える現代的な教育課題に対する授業内容や方法、学校経営、教育相談、生徒指導などについて様々な文献をもとに熟考し、教育を広い視野で捉える時間をつくりたいと考えました。

講義は現職教員の大学院生の方々と共に、基本的にディスカッション形式で行います。初めは話し合いに上手く参加できず、もどかしい思いをしました。しかし、学校教育に関わる様々なテーマについて自分なりに考えを語ることや、他の学生の多様な経験値に基づいた意見を聞くことは、教師を志す上で非常に貴重な経験であるし、同時に教員採用試験対策につながっていたように思います。

実習は、松江市内の高等学校で様々な教科の授業観察や授業実践、学級経営への関わり等の貴重な体験をさせていただいています。このように、教職大学院では理論と実践の往還を通して、充実した学びが保障されています。学校現場に出る前に、まだ学び足りていないという思いのある方は、ぜひ進学を検討してみてください。

多忙な教員生活の中で、勉強しながら採用試験合格を目指すことに自信がなく不安を抱いていた私は、講師として働くか迷いながらも、現場よりも勉強時間が確保でき、なおかつ教職に対して学びを深めることのできる教職大学院へ進学することを選択しました。

大学院では、日々の授業が全て教員採用試験の対策に直結していると言っても過言ではありません。最新の教育現場の理論等を学びつつ、協力校で実践を行うことが出来ます。教職大学院の一番の強みは、現職教員院生の先生方と一緒に勉強できることだと思います。理論的な知識だけではなく、先生方から実際の現場の状況を聞き、イメージしながら学べることは、「活きる学び」に繋がっていると実感しています。

実際に、私が採用試験の面接で聞かれた内容は教職大学院の授業で学んだことや考えたことばかりでした。また、教員採用試験の対策に関しては、現職の先生方に模擬授業を手伝っていただいたり、教育委員会や管理職で働いておられた先生方に面接練習をしていただいたり、手厚くサポートしていただきました。そのおかげで、本年度、教員採用試験において合格をいただくことができました。

教職大学院には、学生を応援してくれる環境が整っていると思います。教職大学院に進学することは一見すると遠回りに思えるかもしれませんが、私自身、入学当初は、同期が続々と教員として働き始める中で、自分だけ置いて行かれているような状況に劣等感や焦りを感じていました。しかし、現在では、自分が大学院に進学して良かったと自信を持って言えます。それはこの半年間で得てきた学びが自分のものになり、早く現場で活用したいという思いが膨らんでいるからです。悩んだ末の大学院進学でしたが、勇気をもって進学を決めて良かったと思っています。

Q & A

◆就学途中で教員採用試験に合格した場合、採用はどうなりますか？

たとえば、入学前や1年生のときに合格した場合、島根県や鳥取県等では、大学院修了まで合格を維持したまま待つて頂ける制度があります。

◆教員採用試験の勉強をする時間はありますか？

1年目の大学での講義は1日2-3コマです。それ以外の時間に教員採用試験の対策をして、1年目に合格する大学院生もいます(平成29年度の1年生は83%が合格しました)。2年目は、学校での実習以外は教員採用試験の対策に取り組んでいます。

◆実習校ではどんなことをするんですか？(授業や部活等)

研究テーマに関するデータ収集(観察や調査)と授業実践が中心です。その他、担当学級の学級経営の補助や、学校行事の運営補助、中学校では部活動指導の補助など、授業以外にも学校の様々な活動を体験します。

◆専門教科の授業がありますか？

教職大学院では、教科指導力の向上のため、教科の内容を深く学び、教材づくりや授業のデザインを考える授業があります。また、研究テーマによっては各教科の教科教育の大学教員が指導教員になりますので、ゼミ形式で教科の専門性を伸ばすことも可能です。

1 年 学生の年間スケジュール紹介

入門期セミナー

《入門期セミナー》

初年次教育プログラムの一つである1泊2日のセミナーです。1000時間体験学習プログラムを理解し、4年間の大学生活の見通しを持つことを主な目的としています。4年間で共に過ごす仲間や学生スタッフの先輩との2日間の関わりを通し、幅広い人間関係を築くことができます。1年生にとって、大学生活への期待がふくらむ有意義なセミナーです。



教育学部で学ぶこと

1年前期に開講される、専門教育科目の基盤となる科目です。文献検索やレポート作成など、大学生としての基礎的なアカデミック・スキルを身につけるとともに、授業観察や授業協議など、教育学部生に必要な技術を身につけます。また現代的教育課題についての理解に基づいて、自らの進路に応じた履修モデルを構想します。

大学祭

松江キャンパスでは「^{しやうかう} 風祭」という名称で毎年10月に開催されています。



基礎体験交流会

1・2年生を対象とした基礎体験の意見交換会です。先輩や他専攻生の話を聞き、今後の各自の基礎体験活動の充実を図ります。

●●学部(大学)行事等 ★web入力(必須)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
●入学式・オリエンテーション ●入門期セミナー			●地域理解セミナー(仮称)	●主専攻決定	●スタートアップセミナー		●大学祭			●基礎体験交流会	
●専攻決定ガイダンス ●一般教養ちからだめし★教職志向性調査								●介護等体験登録締切	●介護等体験説明会		
	●学校教育実習Ⅰ				●在学生ガイダンス ●副専攻仮決定(年度末に決定)						●副専攻決定
●学校教育実践研究Ⅰ											
●基礎体験合同説明会 ●基礎体験活動開始											

学校教育実習Ⅰ 教職志向・進路調査

学校教育実習Ⅰ(前期・20時間)

附属学校園で5日間、午前中は授業観察を行い、午後は大学で観察のまとめと振り返りを行います。



学校教育実践研究Ⅰ

学校教育実習Ⅰと連動して水曜3コマに開講されるコア授業科目です。大学4年間の学びにおける教育実習の位置づけを理解するとともに、「教わる側」から「教える側」への視点の転換を図ります。また、学校教育実習の期間中には、自ら作成した授業(保育)記録に基づいて建設的な授業協議を行うための基礎的な技能を身につけます。

基礎体験活動開始 (1000時間体験学習プログラム)

必修の100時間(基礎体験セミナー・介護等体験など)と選択の540時間の時間認定が必要です。選択の活動では、地域のイベントや社会教育施設の活動、小・中学校での学習支援など、多様な活動に参加できます。



地域理解セミナー

これから本格的に基礎体験活動を始め、1年生対象の基礎体験セミナーです。地域における学校現場以外での教育活動について理解を深めたり、基礎体験活動におけるルールやマナーについて確認したりして、安心して活動に取り組むことができるためのセミナーです。

スタートアップセミナー

入学時からの基礎体験活動の取組を振り返る基礎体験セミナーです。体験時間の確認、活動参加への心構えや手続きの再確認を行います。また、小グループに分かれて体験発表会などを行い、今後の活動をさらに充実させていくためのセミナーです。



2年 学生の年間スケジュール紹介

学校教育実習Ⅱ

教育実習Ⅱ（通年・20時間）

附属学校園で行う教科指導を中心とした観察実習です。主専攻に対応する校種・教科の授業参観・授業協議を行い、ポートフォリオを作成するとともに模擬授業演習等を行うことによって授業設計の基礎を培います。3年生で行う実習Ⅲを履修するためには、2年生終了時までには別途定められた履修資格を満たしている必要があります。

充実期セミナー

2年生を対象に開催される基礎体験セミナーです。各自の取組の傾向をもとにしたグループでの活動を通して成果や課題を明らかにすることを目的としています。また、学内資格を取得している先輩からのアドバイスを受けることもできます。



教師力パワーアップセミナー

教師力パワーアップセミナーは教員採用試験への対策や教職をより深く理解するための取組です。3月の「宿泊研修」には2年生から参加できます。教員採用試験の合格者や現任教員である先輩との交流会もあります。



●学部（大学）行事等 ★web入力（必須）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
●在学ガイダンス ●健康診断 ●介護等体験事前指導 ★教職志向性調査					●充実期セミナー	●プロフィールシート(PS)作成説明会 ●PS返却 ★PSまとめ ★教職志向性調査		●教員採用試験合格者体験報告会		●基礎体験交流会 ●教師力パワーアップセミナー	
					●在学ガイダンス		●C系・G系				●ポートフォリオ提出締切
		●学校教育実習Ⅱ									
		●介護等体験									

介護等体験

特別支援学校及び社会福祉施設（老人ホーム等）で、あわせて7日間の体験を行います。

＜内訳＞

- 島根県又は鳥取県内の特別支援学校での体験（2日間）
（例）授業の補助、学校行事等校務全般にわたる補助等の体験等
- 島根県内の社会福祉施設（老人ホーム等）での体験（5日間）
（例）介護・介助、障がい者等の話し相手や散歩の付添い等の交流の体験、掃除や洗濯等受入れ施設の職員に必要とされる業務補助等の体験等

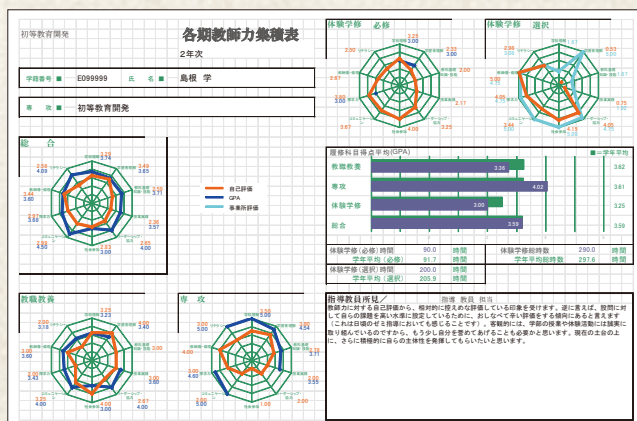
C系・G系

学校教育体験領域における実習で、1000時間体験学修の体験時間としてカウントされます。2年生の後期と3年生の前期に開講され、半期毎にどちらかを受講することになります。**C系**は個人（子ども・保護者）に対する支援（Counseling）を想定した実習で、相談場面のロールプレイを通して、よりよい聴き方や相手の気持ちに添う関わり方について学びます。**G系**は学級集団形成など集団における支援（Group approach）を想定した実習で、自分や相手の特性に関する気づきを促すグループ活動を通して、よりよい学級集団づくりの技能を学びます。



プロフィールシート

大学での学びの状況は、履修単位の成績評価だけで計ることのできない広がりをもっています。プロフィールシートは、そのような学生一人ひとりの学びの成果と軌跡を記録する「カルテ」です。プロフィールシートの作成は、4年間で3回、大学生活の節目の場面でいきます。その目的は、教師に必要な能力の総体である「教師力」の修得状況を、複数の評価視点（自己評価、他者評価、客観的評価）によって可視化し、学びの状況とこれからの目標を確認することにあります。



学校教育実践研究Ⅱ

学校教育実習Ⅲ・Ⅳと連動して開講されるコア授業科目です。主専攻に対応する校種・教科の授業実践に焦点化し、授業分析や教材研究、学習者理解を基本とした教材制作のトレーニング、学習指導案作成と模擬授業を行います。また事後指導では、自らの実習を深化・発展させるためのふりかえりを行います。

実習セメスター

3年生の後期は実習セメスターとなっています。この期間に教育実習Ⅳ・Ⅴを行います。実習を行わない期間を活用して特別に用意された基礎体験活動を行います。公立小中学校・幼稚園に教育体験に行くことができ、教育実習とこの学外教育体験を往還させることによって、より幅広い教師力を身につけることが期待できます。

学校教育実習Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ

●学校教育実習Ⅲ（前期・40時間・1単位）

主専攻に対応した教育実習です。附属学校の授業観察を通して、授業を「教師と学習者のコミュニケーションの総体」として把握し、学校教育実習Ⅳに必要な授業実践力の基礎を培います。

●学校教育実習Ⅳ（後期・120時間・4単位）

主専攻に対応し、授業実践に主軸を置いた教育実習です。教科指導をはじめ、学習集団の形成や学級経営に係る実践的トレーニングを行い、教職へのより深い理解と基礎的な実践力の育成を図ります。

●学校教育実習Ⅴ（後期・40時間・1単位）

副専攻の校種・教科に対応した観察実習主体の教育実習です。学齢期にある子どもの「成長」「発達」をより長いスパンから捉え、子ども理解を深めます。

●学部（大学）行事等 ★web入力（必須）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
実習	●学校教育実践研究Ⅱ						●実習セメスター					
		●学校教育実習Ⅲ				●学校教育実習Ⅳ		●学校教育実習Ⅴ				
講義・その他	●在学生ガイダンス ●健康診断		●実習セメスター説明会		●実習セメスター合同事前指導							
	★教職志向性調査					●在学生ガイダンス		●面接道場				
		●C系・G系						●プロフィールシート(PS)作成説明会 ★PS入力	●PS返却			
								●応用期セミナー★PSまとめ ●教員採用試験合格者体験報告会 ★教職志向性調査				●教師力パワーアップセミナー

面接道場

外部の目を通して、教育学部学生に対する期待や要望を学ぶ機会が特別に設けられています。それが「面接道場」です。人生の達人である学部評価委員の方々が、面接を通して社会人としての基本的な資質を伝授していただきます。



応用期セミナー

3年生対象の基礎体験セミナーです。実習セメスター及び教育実習での活動を振り返り、今後の大学生活を展望するとともに、進路決定に向けての自己啓発を促す時間とします。学外体験活動や教育実習での学びの発表会や進路希望別グループでの協議を行います。



教師力パワーアップセミナー

教師力パワーアップセミナーは教員採用試験への対策や教職をより深く理解するための取り組みです。3月の「宿泊研修」に始まり、教員採用試験の面接対策や卒業後の教員生活ですぐに必要なスキルを研修します。教員採用試験合格者や現任教員である先輩との交流会もあり、不安や悩みを解決できるセミナーです。



学校教育実習Ⅵ 幼稚園実習

学校教育実習Ⅵ(前期・40時間・1単位)〔選択〕
幼稚園実習(通年・80時間・2単位)〔選択〕

それぞれの教職志向に対応し、主体的に選択する学校教育実習科目です。取得したい免許状に基づき、学校教育実習Ⅵ、幼稚園実習のいずれかを選択します。

発展期セミナー

4年生対象の基礎体験セミナーです。4年間の大学生活で、自ら選択して取り組んできた基礎体験活動について振り返ります。基礎体験活動の成果や、自己の在り方への影響度などを協議することを通して、自分自身の学修の総括を行います。



学生教育情報

これらの情報は、同学年や全国の動向などをふまえ、みなさんの就職支援を行う上で有益な情報となります。たとえば、あなたの現在の履修状況と進路希望とのより良い組み合わせが発見されるかもしれません。また、教員採用試験を受験する予定の県の情報をブログシステムで把握したり、就職を希望する県教委から依頼があった際に、素早く連絡を受けて就職につなげることもできます。

●学部(大学)行事等 ★web入力(必須) ■教員採用試験関連

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
卒業研究	●題目提出締切り(指導教員に提出)											●口頭試問 ●卒業演奏試験(音)
教員採用試験		■願書提出		■一次試験	■二次試験 ■講師登録					■各教育委員会による 合格者研修		■勤務校決定 ■講師採用の 連絡
		●教師力パワーアップセミナー			■合格発表		■合格発表					
その他		●学校教育実習Ⅵ				●発展期セミナー ●在学生ガイダンス(就職・進路調査)	●教育職員免許状申請手続					●卒業式 [PS返却] ●進路状況 調査
	●在学生ガイダンス ●健康診断 ●進路希望調査					●プロフィールシート(PS)作成説明会 ●PS入力	●教職実践演習			●PSまとめ 入力		
					●大学院出願(I期) ●大学院入試(I期)	さらに自分を磨く基礎体験(学校体験を中心に)			●1000時間体験学修時間認定締切り ●大学院出願(Ⅱ期)			●大学院入試 (Ⅱ期)
	★教員採用試験・就職活動で変化がある度に就職支援室に報告する。											

教員採用試験

先輩からのアドバイス

- ◆受験する都道府県を早めに決め、出題傾向を分析
- ◆試験問題にはヤマをはらずに、分析結果をまんべんなく
- ◆二次対策(面接、実技など)も早めに
- ◆提出物は早めに作成、必ずコピー、早めに提出必ず誰かに読んでもらう
- ◆問題集・参考書はあれこれ手付けても意味がない。同じものを何回も
- ◆先輩のアドバイス、体験談は何よりも貴重
- ◆自分の試験勉強のリズムを早く見つける(息抜きの時間も必要)
- ◆友達の良いところはどんどん真似して取り入れる(仲間は大切)

未来教師塾

教員採用試験対策

＜教師力パワーアップセミナー＞

- 主に面接(集団・個人)、集団討論の練習をします。
 - 教育学部の教員や学外の教育関係に携わっている方が面接官をしてくださいます。
- ここでのアドバイスはとても重要です。

＜就職支援室＞

- 証明写真の試し撮り、面接の様子を撮影してくれるサービスを開始
- 各都道府県の教員採用試験動向情報を提供
- その他の就職相談

＜その他＞

- 教員採用試験受験テキストブックをチェックする
- 各種セミナーに積極的に参加する。
- 学部情報ブログをチェックする。
(教員採用試験情報が日々更新)



卒業生の声

自分でつくる4年間

初等教育開発専攻 坂本美沙紀



大学生活4年間を振り返ってみると、本当に充実した日々でした。自信を持って「島根大学に来てよかった」と言うことができます。それも、私たちの学びを全力でサポートしてくださる先生方、頼りになる先輩、常に楽しく時には刺激し合える同回生、新しい視点を与えてくれる後輩など、かけがえのない出会いがあったからなのではないかと思います。もちろん楽しいことばかりではなく、教育実習や教員採用試験、卒業研究など辛くて逃げ出したくなることもありました。ですが、同じ目標に向かって励まし合いながら頑張る仲間がいたからこそ、乗り越えることができました。

島根大学は1年生から教育実習があり、1000時間体験学修、公立学校での実習など、大学の授業を通して学んだことを実践できる機会が多くあることが魅力であると実感しています。私は人前で話すことがとても苦手で、小学校の先生を目指す身としてこのままでやっていけるのかと始めはすごく不安でした。ですが特に1000時間体験学修を通して、子どもたちの前で話す機会をたくさん経験することができ、自分の苦手なを少しずつ克服していくことができたと感じています。また、大学の講義で学んだ理論を多くの体験を通して考え、実行し、振り返ってまた次に生かす力も4年間を通して身に付けることができました。

新入生の皆さん、大学生活では講義、1000時間体験学修、部活やサークル、アルバイトなど様々な経験を積むことができます。どんな講義を受けて、どんな1000時間体験学修を選択するのか、どんなアルバイトをするのか、手を抜くことも一生懸命やることも、全て自分次第です。ただ、時間は限られています。自分の手で後悔しない大学生活を作っていってほしいと思います。

来年度からは、鳥取県の小学校で教員として教壇に立ちます。出会いを大切にしながら、子どもたちと一緒に笑ったり泣いたりしながら、日々頑張っていきたいと思います。

将来につながる学びを

初等教育開発専攻 富田明日香



島根大学での大学生活の大半は部活動でした。硬式テニス部に所属し、約2年間女子キャプテンも務めました。大学の部活動は本格的で、今まで楽しむだけのテニスをしていた私にとっては苦しいときもありました。また、社会で役立つような経験もでき、高校生まで家族や友達に頼り切っていた私にとっては自律するという面でつらいときもありました。しかしながら、部活動を引退した今、部活動での学びはこれから私が生きていく上で糧になることばかりで、硬式テニス部に入部してよかったと思います。そして、苦しいことやつらいことを乗り越えるときには家族や友だちなど周りの方に自分が支えられていることを実感し、感謝することができるような人間になりました。島根大学での大学生活は、とても充実したものになったと思います。

その中の島根大学教育学部の魅力は、1000時間体験学修だと思います。イスに座ってカリカリと学修するだけでなく、体験的に子どもたちとふれあって学修することで、多くのことを学びました。これは学修と部活動との両立が必要な私にとって学びやすい環境となりました。また、教員採用試験の二次試験では、1000時間体験学修の経験を面接で語ったことで、面接官の方が「現場でもあり得るようないい経験をされましたね。」と言ってくださいました。島根大学教育学部の1000時間体験学修は、文武両道を目指している学生にとって学びやすく、また教育現場に似通った形での学びを与えてくれると思います。私は学修においても、充実した学びを得ることができました。

来年の春からは、広島県の小学校教諭として過ごします。大学生活4年間でこれだけのことを学んだので、もっと楽しいことも苦しいこともたくさんあるでしょう。この先どんなことがあっても乗り越えて、しっかり頑張っていきたいと思います。

体験≧知識 ～充実した体験学修の先に～

音楽教育専攻 三島 武志



高校3年生の夏、鳥根大学教育学部を受験することを決めました。そのときは、地元である鳥取県に近いこと、教員免許を2つ取得できることが決め手でした。しかし、これまで学んできて感じているのは、私が思っていたよりも大きな価値があったということです。

ここでは、多くの体験学修の機会に恵まれていました。私は、附属中学校の実習だけではなく、鳥取県の中学校にも学習支援という形で伺わせていただきました。実際の現場を体験し、子ども達との関わりの中で学びを深めることができます。講義を受けるだけでは、実際の現場の様子や子どもたちとの関わり方など、わからないことはたくさんあります。講義で培ったことを実際に活用することで、知識や技術を体得することができたと感じています。教員を目指していた私にとって、有意義な経験になりました。

改めて振り返ると、大学の4年間はあっという間に過ぎていきました。それは、非常に中身のつまった4年間であったからだと感じています。仲間とともに笑いあったこと、大きな壁を目の前に悩んだこと…。思い返せば数え切れないほどの体験をしてきました。そして、そのどれもが今の自分に繋がっていると確信しています。

来年度からは、鳥取県の中学校で音楽の教員として働きます。不安なこともたくさんありますが、大学での学びを糧にさらに成長していきます。常に学び続ける姿勢を大切にして、教員生活を送っていきたいです。

大学は人生の夏休み

美術教育専攻 柿田 康利



「大学は人生の夏休み」と耳にするかと思います。この言葉は“大学は人生の中で最も遊べる期間”であるという解釈をされがちです。実際、大学の先輩や社会人の方から「今のうちに遊んどけ。」と何度も言われ、私自身、遊べる期間だと思っていました。授業を自分で組め、課題も高校に比べ少ない。加えて大学生生活の3分の1は休日です。このような大学生生活が遊ぶ期間だと捉えられるのも無理はありません。

しかし、教育学部での4年間を振り返ると、異なる解釈に至りました。この自由に時間を使える期間は、『経験を貯蓄するための時間』であるということです。教師は教育に関する経験も必要ですが、教育の分野に留まらず、多くの分野の経験が重要だと思います。行事の企画や運営における準備、趣味や特技の追求、アルバイトなどの社会の一員としての経験など、できる経験は様々です。その経験が子どもたちへのアドバイスに繋がり、場面に応じた説得力のある話になります。多様な経験は、時間が多く取れる学生のうちだからこそできるのだと思います。大学生生活は自分のやりたいこと、自分に足りないことを経験できる絶好の機会です。

そして、鳥根大学の教育学部には1000時間体験学修という経験を増やせる機会があります。私はこの1000時間体験を通して様々な経験をしてきました。この経験は間違いなく、教師として働くだけでなく、社会に出た際に役立ちます。自分に何が 필요한のか、自分の強みは何かを自分自身と向き合い、考え、実行する機会がこの学部の魅力ではないかと思います。この1000時間体験をうまく活用し、自信をもって社会に出られるよう大学生生活を有意義なものにしてください。

この春から鳥根県の小学校教諭として働きます。鳥根大学で学んだ多様な知識や経験を活かし、自分の理想の教師像に一步でも早く近づけるよう精進していきます。

後援会活動の概要

平成29年度

1. 学生教育活動の支援

- ①1000時間体験学修、面接道場、教師力パワーアップセミナーなど学生教育活動事業経費への助成
- ②学生の体験活動等の交通費補助（全学年）
- ③学生の学会発表等の交通費補助
- ④ICTルーム等の環境整備への助成



実習セメスター
(スクールインターンシップ)



基礎体験活動



面接道場



明るくて快適な
ICTルーム 金魚鉢

2. 教育実習の支援

- ①教育実習を充実させるため、各実習受入校の実習経費への助成（学生が実習で使用する文房具や教材等への助成）
- ②教育実習ワークシート作成への助成



教育実習

3. 就職活動の支援

- ①教員志望学生の援助
教員採用試験に向けての対策と指導に関する経費への助成
- ②教員採用試験受験テキストブック作成に関する経費への助成
- ③就職支援室の書籍整備等への助成
- ④企業志望学生の支援
就職ガイダンスを開催し、企業就職関連の各種セミナー等を行なう経費の助成
- ⑤4年生の就職活動の交通費補助
- ⑥教員採用試験の模擬試験の受験料補助

4. 国際交流活動の支援

釜山教育大学校（韓国）との交流事業等への助成、テキサス大学、ミシガン大学学生との交流活動への助成

5. 教育環境整備の支援

構内の教育環境の改善を図り、学生の生活環境の向上及び充実のための施設整備経費への助成（トイレ内整備、玄関の花壇整備など）



正面入口前広場の花や観葉樹

6. 広報事業の実施

後援会事業活動報告及び学部の教育・研究活動並びに学生生活の様子等をお知らせするための後援会「機関誌」を発行

7. 課外活動の支援

在学中における各種部活動、大学祭、寮祭、中四国大学学生競技大会参加等の活動費への助成

平成30年度

教育学部後援会幹事名簿

地 区	氏 名	在学年	学生氏名	備 考
松江市	石 原 秀 夫	4 年	石 原 翼	
松江市	勝 部 宏 行	4 年	勝 部 友 香	会 長
米子市	松 原 智 子	4 年	松 原 直 哉	
出雲市	山 根 充 司	4 年	山 根 真 美	副 会 長
松江市	井 上 尊 雄	3 年	井 上 真美加	監 事
松江市	門 脇 健 次	3 年	門 脇 壮太郎	
松江市	栗 山 政 和	3 年	栗 山 和 暉	
松江市	須 山 誠 司	3 年	須 山 晴 貴	副 会 長
松江市	伊 豫 宣 行	2 年	伊 豫 月 野	監 事
飯石郡	高 橋 克 裕	2 年	高 橋 陽 向	会計幹事
松江市	原 俊 行	2 年	原 尚 樹	
米子市	山 田 二 郎	2 年	山 田 真太郎	

(順不同、1 年生からの幹事は未定)

補助事業のお知らせ

教育学部後援会

平成30年度の後援会事業として、会員学生（保護者が後援会会員である学生）に対して、下記の補助を実施します。

補助を希望される方は、学部事務室までお問い合わせください。

全学年・院生対象

- ◆介護等体験、1000時間体験（基礎体験活動等）、実習セメスターでの学校体験活動、実習等に伴う交通費を補助します。

【5,000円まで（年間）】

3・4年生、院生対象

- ◆教員採用試験模擬試験の受験料を補助します。

【5,000円まで】

- ◆就職活動（教員等採用試験の受験を含む。）の交通費を補助します。

【10,000円まで】

全学年・院生対象

- ◆学会発表等の交通費を補助します。

【10,000円まで】

○問合せ先：教育学部事務スタッフルーム（165室）後援会担当

電話 32-6251（内線3521）

E-mail : edu-jimu@office.shimane-u.ac.jp

- 発行 島根大学教育学部後援会
E-mail edu-jimu@office.shimane-u.ac.jp
ホームページURL <http://www.edu.shimane-u.ac.jp/edu/koenkai.html>
- 発行日 平成30年6月1日
- 発行所 島根大学教育学部内 教育学部後援会事務局
- 所在地 〒690-8504 松江市西川津町1060
TEL (0852-32-6251)
FAX (0852-32-6259)
- 印刷 株式会社谷口印刷